

令和6年度首里城扁額製作検討委員会

第1回 検討委員会資料

2024年9月25日（水）14:00 - 17:00

【資料5－2】 「中山世土」正殿への扁額取付方法について

1. 正殿への扁額取付に関する方針

- ・ 沖縄県においては、かつて首里城正殿の2階御差床に掛けられていた扁額を復元することで、首里城正殿内の歴史的空間の復元整備に資することを目的としている。
- ・ 一方、2階御差床については、来園者の多く集まる場所であること等も踏まえ、地震等を含めた落下の危険性をできるだけ除去する必要がある。
- ・ 上記の観点を踏まえ、扁額については、**見え掛かり部については往時の正殿内部空間の再現に配慮しつつ、見え隠れ部において現代的な方法で安全性を確保した設置を行う。**

首里城扁額製作検討業務における正殿取付方針(案)

<p>正殿との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 扁額取付にあたっては、歴史的空間の復元整備を目指す正殿建物の施工に大きく関わることから、美術工芸品の復元における考え方とともに、正殿の復元整備の考え方にも準拠して検討を進める。 ・ 正殿建物の設置者である国と連携しながら扁額の取付を行う。
<p>取付方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文献等から往時の扁額取付手法の詳細が不明であることから、令和復元においては金具等を用いた現代的工法で取付を行う。
<p>安全性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来園者が多く集まる2階御差床への設置であることから、安全性を重視し、地震等を含めた落下の危険性をできるだけ除去できる方法で扁額の取付を行う。 ・ 平成復元時より扁額の総重量が重くなっていることを考慮し、荷重に耐えられる取付方法や取付金具等を検討する。 ・ 正殿の防火・防災設備（スプリンクラー等）の配置等を考慮して扁額取付を行う。
<p>景観性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2階御差床の歴史的空間を損なわないような設置手法を検討する。（見え隠れ部での金具取付等） ・ 見え掛かり部の扁額の額縁彫刻や、内法額木の装飾を損なわないような設置手法を検討する。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代的な工法で取り付けられた金具等は、往時の工法でないことが区別できるようにする。

